

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 29 年度
氏名	一柳 由紀子	指導教員 (主査)	糸井 志津乃

論文題目	乳幼児健診時における保健師の相談対応
------	--------------------

本文概要

目的：乳幼児健診における保健師の相談対応を明らかにする

方法：市町村保健センターに勤務して乳幼児健診に携わった経験をもつ保健師 6 名に半構造的面接を行い、得られたデータを質的記述的に分析した。分析方法：研究参加者に許可を得て録音した面接内容の逐語録を作成した。乳幼児健診での保健師の相談対応についてインタビューガイドに沿って語られた部分、言葉の意味や内容を保持しながら適切に区切り簡潔な表現としたものを「コード」とした。「コード」の意味や内容の共通性をまとめ、比較検討したものを統合し《サブカテゴリー》とした。さらに抽象度をあげ【カテゴリー】とした。研究の全過程において担当教員よりスーパーバイズを得て進め確証性を上げた。

結果：研究対象者の概要) 研究協力の同意が得られた保健師の 6 名で、すべて子育て経験のある既婚女性であった。乳幼児健診経験年数は、平均 16 年 (範囲：5 年～35 年) であった。乳幼児健診の相談対応として、コード数 112 から、10 のサブカテゴリー、5 つのカテゴリーが抽出できた。乳幼児健診時における保健師の相談対応として【母の心情を引き出すために相談環境を整える】【母を受け入れるための自分の準備と関わり】【状況に合わせた育児支援の方向づけ】【支援を続けるための連携】【支援向上のための振り返り】の 5 つのカテゴリーが導き出された。

考察：乳幼児健診の保健師の相談対応として、導き出された 5 つのカテゴリーは、相談対応に向けて環境を整える内容、母親に対しての支援の方向づけ、継続性に向けて連携をとっていた内容、さらに母親への支援を向上させるために保健師が行う振り返りであった。乳幼児健診時に保健師が行っている対応を実践知として広めていくことが重要だと考える。

結論：本研究では、乳幼児健診時における保健師の相談対応を明らかにする目的で保健師 6 名を対象に半構造化面接を用いた質的記述的研究を行った。その結果、コード数 112 から、10 のサブカテゴリー、5 つのカテゴリーが抽出できた。【母親の心情を引き出すために相談環境を整える】【母親を受け入れるための自分の準備と関わり】【状況に合わせた子育て支援の方向づけ】【支援を続けるための連携】【支援向上のための振り返り】の 5 つのカテゴリーで説明された。子育て支援の起点となる乳幼児健診が母親にとって子育てを応援してもらえる機会と捉えられ、より多くの母親の子育てに寄りそう支援につながっていくためにも、今後は保健師の実践知を広めていくことの重要性が示唆された。

キーワード：母親、育児支援、乳幼児健診、保健師、相談対応